神戸市立大池小学校 学校評価報告書

神戸の教育が目指す人間像		教育ビジョン		神戸が目指す これからの学校の姿	
心豊かに たくましく生きる人間		自他を大切に 自ら考え 未来をつくる		人がつながり ともに創る みんなの学校	
リ学 の校 目づ 標く	大きな心で いきいきとねばり強く けんめいに				
内容	重点的な取組み	評点 (4段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
育て たい 子 ど も の 姿	大きな心で いきいきとねばり強く けんめいに				
	目らを大切にし、自尊心の高い 互いを認め合える思いやりのあ る子 最後までめざらぬ事に課題を果 り越えられる子 自分から課題を見つけて学ぼう とする子 安全で規則正しい生活のできる 子 進んで体を動かし体力をつける 子	3	正しい言葉遣いについて学校全体として取り 組んだ。6年生が各教室に行き、下の学年に 言葉遣いについての授業を行った。	1年生と2年生、1年生と2年生など、異学年の交流が 行われており、とても良い。低学年の児童が登下校中に 高学年の児童に親しげにかかわっている姿も見られる。	異学年交流を行うことは、上級生にとっても下級 生にとっても大変意義のある活動と捉え、今後も 継続していきたい。
	授業形態の工夫 ICT機器の活用 ぐんぐんタイムの充実 分かる授業の研修	3	ICTを使った授業づくりを積極的に行った。視覚的に捉 えやすく、分かる授業の一助となっている。また、子供 たちもICTへの抵抗感がなくなっている。今後、低学年 の使用機会が課題。	パソコンや電子黒板の使用で、より子供たちが見て楽し い授業となっている。ただ、パソコンが重いとの声を耳 にすることがある。	ICTを使った授業づくりの研修が分かる授業につな がっている。パソコンを持ち帰る分、今後も持ち 帰る物について学年等で検討を重ねていきたい。
	3つの柱 なわとび検定	3	今年度から、パワーアップ3と題し、6年生の子供たち が学校全体で取り組む3つの柱を考えた。またそれをど のように進め下の学年に広め全体で取り組むかについ ても6年生が中心となって実行した。	6年生が下級生に言葉遣いについて授業を行った取組は よかった。最高学年として下級生への思いやりの心が育 まれる。	今年度より学校の子供たちの取組の中心となる3つの柱を6 年生が考え、それを下級生に示し、広めていく活動は継続し ていきたい。
必須 テ ー マ	①いじめ防止対策に関する取組 み	4	事案が発覚した時はできるだけ早急に、そして慎重に対 応することを心掛けた。学期ごとにアンケートをとり、 子供たちにも聞き取りながら進めることができた。	早急かつ慎重に対応いただき、家庭とも連絡を取り合 いながら良い方向に進んでいる。	校内支援委員会等の継続による、早期発見、早期対応に努 めていきたい。問題が発覚した際には、職員間で情報共有を しながら、組織的に対応していけるよう心掛けていきたい。
	②不登校支援の取組み	3	つながりを継続していくことを大切に考 え、家庭連絡や家庭訪問の実施。個々の 困り感に寄り添いながら対応していく。	デリケートな問題にも学校にはいていいいに対応 してもらっているので安心と信頼を感じること ができる。	個々の状況を把握し、個に応じた対応を継続して いきたい。また、職員全体で情報共有し、組織敵 に取り組んでいく。
	③教職員の業務改善	2	学校の閉校時間を設定し、その時間から逆算して やることを決めていき、できるだけその時間まで に仕事を終わらせるよう努めている。	家庭同士のつながりが薄くなっている中、学校に 連絡し、共に考えてもらっていることはありがた い。職員の業務改善。少しでも負担が減ることを 願っている。	子供たちにとって楽しい授業、分かる授業を目指 し授業の資質向上に努めていく。そのため、放課 後の業務を改善し、教材研究の時間確保が必須。
	④保護者・地域への情報提供・ 発信（すぐる活用、ホーム ページ等）	4	ホームページの更新は日々行い、保護者や地 域の方への情報発信を継続することができ た。	学校の様子をホームページで見れるのはありが たしい。	学年や学校の取組、子供たちの様子を保護者や地 域の方にお伝えし、情報発信することは継続して いきたい。

【評点】 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：どちらかと言えば課題がある 1：課題がある